

令和4年5月1日

竹早教員保育士養成所
所長 齊藤 光一 殿

竹早教員保育士養成所
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会実施報告

令和3年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

I. 学校関係者評価委員会出席者

芦野 裕一 (学校法人彰栄学園 常務理事)
佐藤 良文 (学校法人明照学園明照幼稚園 園長)
佐々木 妙子 (一般社団法人慈愛会慈愛会保育園 園長)
湯澤 都与子 (竹早教員保育士養成所同窓会 理事)

II. 学校関係者評価委員会の開催状況

令和4年3月1日 (会場：竹早教員保育士養成所 第3校舎第7教室)

III. 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

以上

別紙

1. 学校の理念、教育目標

学校の理念、教育の目的は普遍的なものであるが、近年、社会の保育に対する期待が増大して学生の質が問題となっている。時代とともに問題点に対応することを確認。

2. 重点目標と達成計画

本校では、学生に以下の資質を培うために教職員が一体となって取り組んでいる。そして、学生が節度ある態度や行動、学ぶ意欲をもち、積極的に学習に取り組むことを期待している。

(1) 指導力・実践力を身に付けた幼稚園教員・保育士

- ・保育者としての使命感を自覚し、保育に関する知識や能力の育成を図る。
- ・乳幼児の発達段階・発達課題を理解し、総合的に指導できる能力を育成する。
- ・社会奉仕活動等に積極的に参加し、自らの体験を豊かにするとともに、社会参加の意義を理解する。
- ・特別な配慮を必要とする幼児に対応できる専門的な知識や技能の習得を図る。

(2) 人間性豊かな魅力ある幼稚園教員・保育士

- ・人間的愛情をもって乳幼児に接し、一人一人の感性を育てることに努める。
- ・幼児がお互いを尊重し、社会のルールに従って行動できるよう、学生の指導力を高める。そのために、学生自らも社会的ルールを遵守する。
- ・共に生活できる仲間とのコミュニケーションを深め、協力し合う関係を創り上げる。

新型コロナウイルス感染症流行のため、達成計画・取り組み方法を修正した。資格取得に必要な授業を対面授業と遠隔授業で行い、学校行事やクラブ活動は中止あるいは一部変更して実施した。

3. 評価項目別取組状況の質疑意見は以下のとおり

(1) 基準1 教育理念・目的・育成人材像

本年度も新型コロナウイルスの影響を多く受け、学校行事やクラブ活動は、中止あるいは一部変更して実施することになった。そのため、学生同士の絆が弱くなっていることが今後の課題となった。

(2) 基準2 学校運営

新型コロナウイルスの予防、学習機会の保障のため、対面と遠隔で授業を行った。遠隔授業では、保育について文章化することで理解を深め、実はコミュニケーションも取りやすいことも分かった。ネット環境が悪い学生には、モバイルWi-Fiの貸し出しも行った。

教員の専門分野の研究について、日々に時間がとられること、研究するための環境、研究費用など課題があるというご意見があった。

(3) 基準3 教育活動

実習は校内実習を取り入れ、全て実施することができた。1月の新型コロナウイルス大流行のときは校内実習を遠隔で実施し、最終日だけ対面で実施できるように計画し乗り切った。

保育園協会では、実習生をできるだけ受け入れる方針で未来の保育士を育てる体制が整っているというご意見があった。

(4) 基準4 学修成果

就職面では、求人もたくさんあり、就職主任と担任とが連携をとり学生の指導にあたっている。就職後、労働条件などの知識がない人が多いので時間をとって学ぶ機会をつくる必要があると感じることが多いというご意見があった。

(5) 基準5 学生支援

就職支援は、特別研修で職業に対しての意識付けや就職に向けての具体的な指導を実施している。

学生相談は、クラス担任制を導入していることで個人相談ができる環境になっている。

経済的な支援は、日本学生支援機構の給付奨学金、貸与奨学金、各自治体の保育士修学資金の紹介、学費の延納・分納にも対応してできるだけ学費納入で困らないように支援している。

(6) 基準6 教育環境

全校舎に無線LAN配線を設置し、授業環境の向上を図りました。また、防火シャッターの取替を行い、避難経路の確保につとめました。また、避難訓練は遠隔授業が多かったことから教職員のみで実施し、避難経路等を確認して、いざという時の対応を確認した。

(7) 基準7 学生の募集と受け入れ

本年度は新型コロナウイルス影響で都内の高校ガイダンスが減少したことが大きく響き、学校説明会などへの来校が例年に比べ減少したことが学生募集に大きく影響した。このことから来年度の入学生も連動して減少することなどを確認。

(8) 基準8 財務

新型コロナウイルス、18歳人口の減少などの影響から学校の財務は、令和4年度以降厳しい状況になることが予想されると確認。

(9) 基準9 法令等の遵守

- ・SNS等の指導は引き続き行っていくことを確認。

(10) 基準10 社会貢献・地域貢献

- ・新型コロナウイルスの影響により何もできなかったことを確認。

4. 令和3年度重点目標達成についての自己評価

今年度も、コロナ禍のため、従来の形での学修ができなくなったが、本校の教育目的である「誠実で有為な保育者の養成」を達成するために学修の機会を確保することを第一に考えた。そこで次のことを重点に取り組んだ。

- ①学習支援システム Google Classroom を導入し、オンラインによる遠隔授業を引き続き活用した。毎回の授業において課題提出を課し、これまでと同様に授業への出席について重視した。
一方で学生の通信環境や学習環境に関する調査を実施し、学生の不利益にならないよう配慮も行った。
- ②オンライン授業について学生アンケートを行い実態を把握し、教員同士、オンラインによるわかりやすい授業の進め方について交流した。
- ③演習や実技等、オンラインでは効果が出にくい教授内容については、感染予防を徹底した上で対面授業も実施した。対面授業では、学生同士、学生と教員が協働する体験を通して、時空間を共にして学ぶことの意義を理解し、コミュニケーションを深めるきっかけとした。
- ④毎日登校しないからこそ、報告、連絡、相談の徹底を図った。